

参加者：下記の 19 名（敬称略）

JSCA 正会員：杉浦、吉原、杉山、池田、石原、岩田、上條、鬼頭

技術交流会：遠島、大津、小野、寺田、羽生、吉岡、松崎、高橋、見山

全青会中部：服部、岩井、大村、佐伯、渡邊

場所：竹中工務店 8 階会議室

時間：18：30－20：00

議題【こんな新商品出ましたけど、一度採用してみませんか？】

① シアコッターハイベース（センクシア）

Q1：シアコッターの板厚が厚いが BPL との溶接は？

A1：完全溶け込み溶接

Q2：BPL 下のコッターは、基礎梁上部のフカシ内に納めるのか。

A2：その通り。もしくは基礎梁内に埋め込んで、鉄筋を避ける納まりもある

Q3：基礎梁内に埋め込む場合、モルタル充填となっているが、モルタルは指定建築材料ではないのでは？

A3：評定の中で OK となっている

Q4：埋め込んだ場合の基礎梁に対する考え方は？

A4：評定上は梁の検討方法については定義されていないが、基礎柱型ではモルタルは圧縮力を伝達し、せん断力は伝達しないものとして評定を取得しているため、基礎梁についても曲げモーメント及び軸力についてはそのまま、せん断耐力については断面欠損として除外するのが妥当と考える。

Q5：モルタル充填時のエア抜きの確認方法は？

A5：実大実験にて問題ない事を確認している

Q6：シアコッターのせん断抵抗機構は？

A6：コッターの根元から 45 度を影響線と考え、耐力を考慮

Q7：シアコッター PL は面外応力で抵抗しているのか？

A7：その通り

Q8：面外応力は BPL に戻しているのか？

A8：その通り

② ND コア（日鉄建材）

Q1：新ラインナップの 400□の SN490B 材の基準強度が 325⇒295 となるのは何故？

A1：板厚が40mmを超える部分があるため、そのため490級鋼梁には使用不可

Q2：異径管継手において400□の適用が接合部指針から外れるとは？

A2：早見表に無いという意味、個別に設計を行えば適用可能

③ 高荷重対応合成デッキ EZ50-S 他、HYPER デッキ（日鉄建材）

Q1：どうして高荷重対応が可能となったか？

A1：新たに耐火試験をおこない認定を取得、スタッドボルト接合限定しているため耐力も上昇

Q2：Uka デッキと比較してコストは？

A2：溝鉄筋を省略できるのでEZの方が安い、単価的にもEZの方が安い

Q3：焼き抜き栓溶接が△になっている理由は？

A3：中間梁のみ採用できるという意味、端部梁＝大梁、中間梁＝小梁と見なさない方が良く、片側開口などの場合は端部梁が小梁となるため焼き抜き栓溶接が使用できない。

Q4：許容積載荷重表では撓みは考慮されているか？

A4：撓みは考慮している

Q5：デッキにムクリはあるか？

A5：ムクリはない

④ 等厚スラブ型合成デッキ、サイノスデッキとアクロスデッキ（日鉄建材）

Q1：サイノスデッキでめっき仕上げ以外のものはないか？仕上げにそのまま使えるかも

A1：ない

Q2：三角リブの端部はどうなっているか？

A2：中間部は潰している、簷合部は現場で塞ぎが必要

Q3：一方向版として7m飛ばせるのは魅力

A3：－

Q4：コンクリート打設時に三角リブが邪魔して空気溜まりになる事はないか？

A4：構造試験後の試験体をカットして断面を確認したが問題はなかった

Q5：インサートでデッキが断面欠損しても大丈夫か？

A5：インサートの取り扱い通常は通常の合成スラブと同様であり、問題は無い。開口補強の要領も通常の合成スラブと同様である。

以上